

梶山ひろし

プロフィール

●昭和30年10月18日、茨城県常陸太田市生まれ●県立太田第一高～日大法学部卒●サラリーマン生活を経て、昭和63年会社を設立し、中小企業の経営にあたる●平成12年衆議院議員初当選、現在5期●母・春江、妻・由可子、3女の6人家族



レポート View vol.43

愛郷無限
—新時代—
Kajiyama Hiroshi

●発行／茨城県常陸太田市山下町1189 自由民主党茨城県第四選挙区支部

梶山ひろし国土交通副大臣 9か月(12月～9月)の活動報告



「国際コンテナ戦略港湾政策推進委員会」の
「中間とりまとめ」で記者会見

梶山ひろしが国土交通副大臣として昨年12月の就任以来、約9か月間で推進した主要な政策について、ご紹介します。

1.日本の経済を支える 「みなと」の機能を強化

日本の「みなと」は、国民生活を支える物流の重要な拠点です。国土交通省では、港湾の機能向上に取り組んできました。この取り組みの一環として、日本の主要港のコンテナ貨物取扱個数の世界ランクが徐々に落ちてきているため、日本にも国際競争力のある拠点としての港をつくらうということで、平成22年8月に「国際コンテナ戦略港湾」として選定された京浜港、阪神港への整備を進めてきました。

しかし、世界の海上物流を巡る環境は大きく変化しているため、従来の取り組みのままでは、世界各国に後れを取りかねない状況になりつつあります。

◆責任者として今後の「港湾戦略」をつくる

そこで、このような動きに対応するため、梶山副大臣を座長とする「国際コンテナ戦略港湾政策推進委員会」を7月に設置し、検討を進めています。

この委員会では、日本のコンテナ貨物取扱量をさらに増やすために、海外トランシップ貨物（海外で積み替えされている貨物）の扱いの取り戻し、広域からの集荷や貨物の需要創出、港湾運営会社の経営統合によるサービスの向上やコスト低下など議論してきました。去る8月27日に中間とりまとめを行ったところです。

今後、年内を目途に最終とりまとめに向け議論を行うとともに、日本の港の国際競争力強化に向け、これまでの取り組みをさらに加速させていきます。



「国際コンテナ戦略港湾」である京浜港（横浜港）を視察

